

2021年6月23日 慰霊の日に寄せて 司教メッセージ

「誰^{たあ}ん恨^{うら}みらん 戦^{いくさ}争^{うら}ん怨^{うら}みゆさ」

すべての兄弟姉妹の皆さん、

今年も6月23日がめぐってきました。戦争^{いくさ}の犠牲者を追悼し、世界平和を祈念する特別な沖縄慰霊の日です。例年行っている小禄教会^{おろくきょうかい}での戦争犠牲者追悼・平和祈念ミサ、平和巡礼、魂魄^{こんぱく}の塔^{とう}での祈りの集会^{つどい}は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため今年も休止となりましたが、それに代えて各小教区で同時に追悼ミサを捧げ、平和を祈り求めます。

大城カメさんの琉歌

沖縄戦によってご主人を摩文仁周辺の激戦地で失い、生き残った三人の幼い子をひとりで育てなければならぬ大城カメさんは、その心のおもいを琉歌に詠みました。

『「戦争^{いくさ}たみなかい 後盾^{くさていうし}失^{たあ}なたさ 誰^{うら}ん恨^{いくさ}みらん 戦^{うら}争^{いくさ}ん怨^{うら}みゆさ」

「戦争^{いくさ}世^しん終^{しま}ち 弥勒^{みるくゆん}世^に願^{がてい}って 苦^{あわり}労^{いち}や一^{らく}時^い 楽^いや何^ち時^いまでん」

「三人^{みつちやい}の生^ぬし子^なの 後盾^{くさてい}でむぬ ち^{はたら}と働^{すだてい}ちやい 育^{すだてい}ていかな」 (琉歌)』

戦争のために 後^{うしろ}盾^{だて}(夫)を失^{うしろだて}ってしまったが、誰^{うら}も恨^{うら}まない 戦争^{うらむ}を怨^{うら}むよ。

戦争^すが終^すんで、平和な世界^{いっとき}を願^{いっとき}う。苦^{いっとき}労^{いっとき}は一^{いっとき}時^{いっとき}、幸^{いっとき}福^{いっとき}はいつまでもと祈^{いっとき}る。

(私が)三人^{うしろだて}の子^{うしろだて}供^{うしろだて}たちの 後^{うしろだて}盾^{だて}だから、し^{うしろだて}っか^{うしろだて}り働^{うしろだて}いて 育^{うしろだて}てい^{うしろだて}かな^{うしろだて}ば。

(日本語訳)

平和を希求する沖縄の信条

大城カメさんの詩^{うた}は、戦争^{うた}を生き^{うた}抜き、艱^{かん}難^{なん}を過^{かん}ぎ越^{なん}したウチナーチュの心^{かんなん}の声^{かんなん}であり信条^{かんなん}です。大城カメさんのご主人^{かんなん}がなくな^{かんなん}った摩^{かんなん}文^{かんなん}仁^{かんなん}にある「沖縄^{かんなん}県^{かんなん}平和^{かんなん}祈^{かんなん}念^{かんなん}資^{かんなん}料^{かんなん}館^{かんなん}」の展^{かんなん}示^{かんなん}室^{かんなん}の出^{かんなん}口^{かんなん}に「むす^{かんなん}び^{かんなん}の言^{かんなん}葉^{かんなん}」が掲^{かんなん}げら^{かんなん}れてい^{かんなん}ます。

「沖縄戦^{かんなん}の実^{かんなん}相^{かんなん}にふ^{かんなん}れるた^{かんなん}びに 戦争^{かんなん}とい^{かんなん}うもの^{かんなん}はこれ^{かんなん}ほど残^{かんなん}忍^{かんなん}で これ^{かんなん}ほど汚^{かんなん}辱^{かんなん}にま^{かんなん}みれた^{かんなん}もの^{かんなん}はないと思^{かんなん}うのです この なま^{かんなん}なま^{かんなん}しい体^{かんなん}験^{かんなん}の前^{かんなん}ではい^{かんなん}かな^{かんなん}る人^{かんなん}でも戦争^{かんなん}を肯^{かんなん}定^{かんなん}し美^{かんなん}化^{かんなん}するこ^{かんなん}とはでき^{かんなん}ないはず^{かんなん}です 戦争^{かんなん}をお^{かんなん}こすの^{かんなん}は た^{かんなん}しか^{かんなん}に 人^{かんなん}間^{かんなん}です し^{かんなん}か^{かんなん}し それ^{かんなん}以上^{かんなん}に戦争^{かんなん}を許^{かんなん}さない努^{かんなん}力^{かんなん}ので^{かんなん}きるの^{かんなん}も私^{かんなん}たち 人^{かんなん}間^{かんなん} ではない^{かんなん}で^{かんなん}しょうか 戦^{かんなん}後^{かんなん}この^{かんなん}か^{かんなん}た 私^{かんなん}たち^{かんなん}は あ^{かんなん}ら^{かんなん}ゆる戦争^{かんなん}を憎^{かんなん}み平和^{かんなん}な島^{かんなん}を建^{かんなん}設^{かんなん}せね^{かんなん}ば」と思^{かんなん}いつづ^{かんなん}けて^{かんなん}き^{かんなん}ました^{かんなん} これ^{かんなん}が あ^{かんなん}まりに^{かんなん}も大^{かんなん}き^{かんなん}すぎ^{かんなん}た代^{かんなん}償^{かんなん}を払^{かんなん}って得^{かんなん}たゆ^{かんなん}ずるこ^{かんなん}の^{かんなん}でき^{かんなん}ない 私^{かんなん}たち^{かんなん}の信^{かんなん}条^{かんなん}なの^{かんなん}です」

この沖縄^{かんなん}の信^{かんなん}条^{かんなん}は、ま^{かんなん}こと^{かんなん}に福^{かんなん}音^{かんなん}的^{かんなん}で人^{かんなん}知^{かんなん}を越^{かんなん}えた普^{かんなん}遍^{かんなん}的^{かんなん}な確^{かんなん}信^{かんなん}です。し^{かんなん}か^{かんなん}し残^{かんなん}念^{かんなん}なが^{かんなん}ら、この^{かんなん}よう^{かんなん}に高^{かんなん}邁^{かんなん}な理^{かんなん}想^{かんなん}とはか^{かんなん}け離^{かんなん}れ行^{かんなん}く現^{かんなん}実^{かんなん}があ^{かんなん}ります。い^{かんなん}く

ら平和を渴望^{かつぼう}し、その意思を示してもその声をかき消す圧力が幾重にもこの島を襲っています。それでも決して諦めない地道な歩みは、徹底した非暴力と隣人愛に貫かれた行動、だれも憎まず、敵対する者をも思いやる心、過激に暴力的に訴えず、ひたすら不屈の強い意志でしなやかに、直^{なお}く強い竹のように、佇^{たたず}みます。それは、だれをも否定しない正しさと優しさと勇氣に溢れています。

こうしたウチナーチュの平和希求の行動は、私たちの主イエスの教えに合致し、これからの世界平和への歩みの先駆けであることをフランシスコ教皇の発言は後押ししています。

真の平和を実現するための非暴力

«今、イエスの真の弟子であることは、非暴力というイエスの提案を受け入れることでもあります。わたしの前任者であるベネディクト十六世が述べたように、「イエスの提案は現実的なものです。なぜならそれは、世界の中に『あまりにも大きな』暴力と『あまりにも大きな』不正があること、ですから、『より大きな』愛、『より大きな』いつくしみをもって対抗しなければ、このような状況を克服することはできないことを考慮に入れているからです。この『より大きな』ものは神から来ます」。さらに次のように強調しています。「ですから、キリスト信者にとって非暴力は単なる戦術的な行動ではなく、人格のあり方だということが分かります。それは神の愛とその力を確信する人の態度です。このような人は愛と真理という武器のみによって悪に立ち向かうことを恐れないからです。敵への愛は『キリスト教の革命』の核心です」。敵を愛するよう求める福音（ルカ6・27参照）は、とりわけ「キリスト教の非暴力の『憲章』」と考えてよいものです。キリスト教の非暴力とは、悪に屈することではなく、……むしろ、善をもって悪に対抗することです（ローマ12・17-21参照）。こうして不正の鎖を断ち切ることができます。」»（第50回「世界平和の日」教皇メッセージ「非暴力、平和を実現するための政治体制」）

さあ、ウチナーチュよ！胸を張って生きよう！わたしたちの歩みは、実現不可能な誤った理想主義では決してありません。わたしたちはすでに終戦直後から平和への道のりを平和裏に歩んできました。その非暴力の歩みこそは平和実現の始まりそのものです。不平等や不正、抑圧や暴力、威圧や脅迫が幾重にも襲って来ても、神がさし示した平等と公正、優しさと愛による平和実現を決して諦めることなく、両手をかざして舞い唄いながら、喜びをもってしなやかに、かるやかに、私達らしく非暴力の平和の道を歩みつづけましょう！

カトリック那覇教区長
司教 ウェイン・バート